

◆ 各区だより ◆

千種区

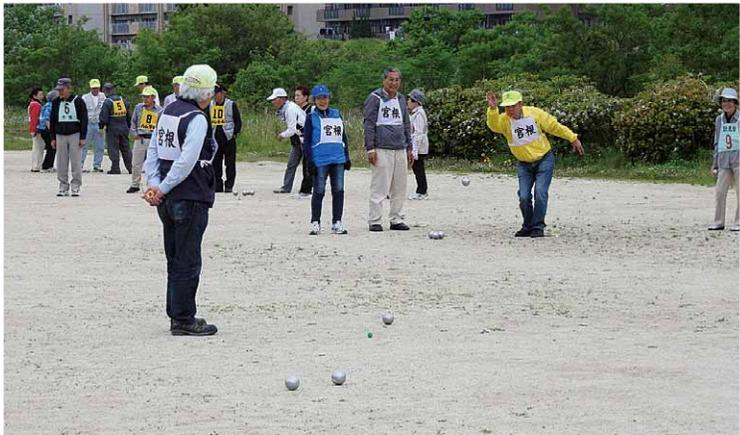


魅力的なクラブを目指し、挑戦続ける

なぜ千種区はいつも最初に呼ばれるのか？ 区老連理事会でふと出された疑問です。市行政機関の文書や統計に始まり、市老連の会議の席順、表彰の順番にいたるまで、常に千種区は最初です。千種区が誕生したのは昭和12年で一番古いわけでもありません。後に合併により誕生した緑区や守山区、分区した名東区や天白区が後の方なのは理解できるのだけど…。

実は、区の数が4から10に増えた昭和12年に市の事務をやりやすくするために区の順序を決めたのです。文書を配るとき、千種区を起点にしな

いと一筆書きで全区を回れないのです。千種・東・北・西：地図を見て理事一同納得。千種区は東部に東山の森、中央部は住みたいまちランキング常連の覚王山・本山・池下、西部には今池の商店街、歴史遺産も多数ある魅力的な街です。千種区老連は、6回のシニアスポーツ大会をはじめ、作品展や演芸大会、講演



会、麻雀交流会、社交ダンスクラブなど数多くの行事を開催していますが、千種区の名に負けないように、16区で一番魅力的な老人クラブを目指して、さらにチャレンジしていきたいと思えます。

(上村 成良)



なごやかクラブ東の指導者研修旅行

なごやかクラブ東では毎年10月に単位クラブ会長および次期リーダーを対象として1泊2日の指導者研修旅行を開催しています。会長等の親睦を深める大切な事業ですが、平成27年度から内容を一部見直しました。より研修色を強めるのが目的です。

主な変更点は、①資料を「旅のしおり」から「研修テキスト」化し資料を充実させる。②宿泊先で会員が講師となり講演会を開催する、の2点です。この2年間の講義内容は会員が参加した市老連関連の研修会報告2題となごやかクラブ東の現状(事務局)です。テキストは事前配布されますので旅行までに「予習」が可能です。会員による研修会報告は予定時間をオーバー、懇親会開催時間に影響するほど熱心に行われました。

施設見学も解説員を依頼しています。28年度は福井市立郷土歴史博物館・養浩館庭園



と富山四季防災館を訪れました。ボランティア解説員や施設関係者による丁寧な説明で理解も深まりました。

少し堅苦しくなった感がある指導者研修旅行ですからお楽しみは欠かせません。懇親会は歓談、カラオケ、日本舞踊と盛りだくさん、締めくくりは全員での合唱です。胸のつかえもすっきりとしました。

近年後継会長がネックでクラブ解散が続きますが、会長業務の負担が遠因とも思われます。困ったときは相談できる、助け合える、そんなリーダー仲間との交流の場としても大切な研修会です。

(力石 昌幸)

